


## 安全データシート

1. 化学品及び会社情報	
化学品の名称	Aspirin <Acetylsalicylic Acid>
コンポーネント名	
商品コード	CAY社 商品コード:70260
供給者の会社名称	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2-9-7
担当部門	コンプライアンス管理部
電話番号	03-5684-5107
FAX番号	03-5802-5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	OTH0176V02 (2024/4/1)

2. 危険有害性の要約(以下、SDSは単一物質としての評価に基づき作成)	
化学品のGHS分類	急性毒性(経口) 区分4 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A 呼吸器感受性 区分1 生殖毒性 区分1B、授乳に対する又は授乳を介した(追加区分) 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器(聴覚)) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(血液系、中枢神経系、胃、肝臓、腎臓、肺、感覚器(聴覚)) 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。
健康有害性	
GHSラベル要素 絵表示	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	H302 飲み込むと有害 H319 強い眼刺激 H334 吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ H362 授乳中の子に害を及ぼすおそれ H370 臓器の障害 H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
注意書き	
安全対策	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202) 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260) 妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。(P263) 取扱い後は眼や手をよく洗うこと。(P264) この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270) 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280) 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。(P284)
応急措置	飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312) 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340) 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診察、手当てを受けること。(P308+P313) 気分が悪いときは、医師の診察、手当てを受けること。(P314) 口をすすぐこと。(P330) 眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当てを受けること。(P337+P313)

保管 廃棄	呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡すること。(P342+P311) 施錠して保管すること。(P405) 内容物や容器を、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)
他の危険有害性 重要な徴候及び想定される非常 事態の概要	

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	単一製品
化学名又は一般名	アセチルサリチル酸<アスピリン><2-アセチルオキシ安息香酸>
CAS番号	50-78-2
濃度又は濃度範囲	100%
化学式	C9H8O4
化審法官報公示番号	(3)-1652
安衛法官報公示番号	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし

以下、該当する単一成分のSDSを記載する。

### 4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸に関する症状が出た場合は、医師に連絡すること。 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	水と石鹸で洗うこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸入：咳、咽頭痛。皮膚：刺激、発赤。眼：充血、痛み。経口摂取：吐き気、嘔吐。
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別な注意事項	データなし

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	二酸化炭素、粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、散水。
使ってはならない消火剤	棒状注水。
特有の危険有害性	粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性及び腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め完全な防護服(耐熱性)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 風上に留まり、低地から離れる。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める。こぼれた物質を、ふた付きの容器内に掃き入れ、残留分を、注意深く集める。 湿らせてもよい場合は、粉じんを避けるために湿らせてから掃き入れる。
二次災害の防止策	全ての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。

床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 眼、皮膚との接触、又は飲み込まないこと。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。
接触回避 衛生対策	「10. 安定性及び反応性」を参照。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく眼と手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、屋根とはりを不燃材料で作成し、床は、危険物や水が浸透しない構造とする。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。 酸化剤から離して保管する。 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度(産衛学会)	未設定
許容濃度(ACGIH)	TWA 5 mg/m <sup>3</sup> , STEL -
設備対策	取り扱いの場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	換気が不十分な場合、空气中濃度に応じた粒子用フィルター付マスクを着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を使用すること。
眼、顔面の保護具	適切な保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、保護面を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	結晶又は結晶粉末。	
色	無色～白色。	
臭い	特徴的な臭気。	
融点/凝固点	135℃(融点)、118℃(凝固点)。	
沸点又は初留点及び沸騰範囲	140℃(沸点)。	
可燃性	データなし	
爆発下限界及び上限界/可燃限界	データなし	
引火点	250℃	
自然発火点	500℃	
分解温度	≤140℃	
pH	データなし	
動粘性率	データなし	
溶解度	0.33g/100mL(25℃)。水に難溶、アルコールに易溶、エーテル、クロロホルムに可溶。	
n-オクタノール/水分分配係数(log値)		1.19
蒸気圧	0.004Pa(25℃)	
密度及び/又は相対密度	1.4g/cm <sup>3</sup> (密度)	
相対ガス密度	データなし	
粒子特性	データなし	

10. 安定性及び反応性	
反応性	酸化剤、強塩基、アミン類と激しく反応する。
化学的安定性	酸素濃度が低いと抑制剤の効果が減じられ危険な重合状態になることがある。
危険有害反応可能性	重合しやすい。鉄塩は重合反応を促進する。 重合抑制剤を効果的に作用させるためには空気に接触してはならない。
避けるべき条件	銅、ニッケル、鉄等の金属を侵すので接触を避ける。
混触危険物質	銅、ニッケル、鉄、鉄塩。
使用、保管、加熱の結果生じる危険有害な分解生成物	燃焼した時、有害ガス(一酸化炭素、二酸化炭素)を発生する。
その他	
11. 有害性情報	
急性毒性	
経口	ラットのLD50 = 1,500mg/kg (ACGIH 7th(2001))に基づき、区分4とした。なお、ヒトでの潜在的致死量として、> 500mg/kg(成人)、480mg/kg(子供)との報告がある(IPCS,PIM006(1991))。
経皮	データ不足のため分類できない。
吸入	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	ウサギの皮膚刺激性試験においてわずかな刺激性を示した(IUCLID(2000))との報告が2件あることから区分外(国連分類基準の区分3)とした。なお、詳細不明ではあるがヒトの皮膚に対して刺激性を示すとの報告がある(ACGIH 7th(2001)、IUCLID(2000))。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギの眼刺激性試験において、中等度の刺激性及び軽度の刺激性を示すとの報告がある(IUCLID(2000))。以上の結果から区分2Aとした。なお、詳細不明ではあるがヒトの眼に対して刺激性を示すとの報告がある(ACGIH 7th(2001)、IUCLID(2000))。
呼吸器感作性	ヒトにおいて呼吸器感作性を示すとの報告や(ACGIH(2001)、IUCLID(2001))、アスピリン喘息を発症する事例がある(HSDB Acc.June(2014))ことから区分1とした。
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。In vivoのデータはなく、in vitroでは細菌を用いる復帰突然変異試験で陰性である(HSDB Acc.June(2014)、IUCLID(2000)、NTPDB Acc.June(2014))。
発がん性	国際機関等による発がん分類はない。その他、発がん性に関するデータはない。以上より、データ不足のため分類できないとした。
生殖毒性	IPCS,PIM006(1991)には、胚の培養系では、単回投与のサリチル酸の血漿中濃度付近で奇形がみられること、ラットはサリチル酸の催奇形性影響に対して感受性が高く、一方、ヒト及びヒト以外の霊長類は抵抗性があると考えられていることが記載されている。また、サリチル酸塩中毒が経胎盤、経乳汁で生じる可能性があることが記載されている。 HSDB Acc.June(2014)には、実験動物においては、妊娠初期の投与で様々な奇形(顔面裂、中枢神経系及び眼の欠損、内臓及び骨格奇形)を引き起こすが、ヒトの対照試験では奇形はみられていない。妊娠の最終週に長期間、高用量のサリチル酸の処置は妊娠期間の延長、出生後の胎児、新生児の出血のリスクの増加を引き起こす場合があり、理論的には妊娠末期の定常的な使用は胎児の動脈管の早期の閉鎖、収縮を引き起こすおそれがある。治療量での出生児体重の減少、死産の増加は報告されていない。 サリチル酸はFDAの妊娠カテゴリーC(動物の生殖試験では胎仔に催奇形性、胎仔毒性、その他の有害作用があることが証明されており、ヒトでの対照試験が実施されていないもの。あるいは、ヒト、動物共に試験は実施されていないもの。注意が必要であるが投薬のベネフィットがリスクを上回る可能性はある)に分類されている。

上記のとおり、実験動物において催奇形性を示すが、ヒトにおいては治療量での発生毒性の報告がないことから、区分1Bに分類する。また、乳汁移行の可能性が報告されていることから、追加区分：授乳に対する又は授乳を介した影響とした。

**特定標的臓器毒性(単回ばく露)** ヒトへの経口経路による主な影響は、耳鳴り、聴力損失、痙攣、昏睡、混乱、せん妄、昏迷、振戦、脳浮腫など中枢神経毒性、肝毒性、肺浮腫が報告されている。その他、嘔吐、上腹部不快感、胃腸の出血、頻呼吸あるいは過呼吸、発汗、血管拡張などが報告されている(HSDB Acc.June(2014)、IPCS,PIM006(1991))。アスピリンの臨床知見から胃粘膜刺激性が知られており、嘔吐、心窩部不快感、潰瘍、吐血や下血、潜失血の報告がある(ACGIH 7th(2001)、HSDB Acc.June(2014)、IPCS,PIM006(1991))。以上より、主な標的臓器は中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器(聴覚)と考えられ、区分1(中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器(聴覚))とした。

**特定標的臓器毒性(反復ばく露)** 本物質(アスピリン)の内服により、血小板凝集阻害の機序による出血傾向(凝固時間の延長)を生じ、治療のための常用量(600mg)を5日以上服用すると血液凝固異常をきたす(ACGIH 7th(2001))との記述より、区分1(血液系)とした。

また、情報源の信頼性ランクとしてはList1相当と判断したIPCS,PIM006(1991)には、慢性サリチル酸塩中毒症として、成人では神経症状、吐き気、嘔吐、胃出血(急性症状としては稀で、典型的な慢性中毒症状)、高齢者では呼吸不全、肺浮腫が高頻度にみられ、その他、過呼吸、脱水症、重度の中枢神経症状も多発するとの記述、さらに、標的器官は細胞代謝を受ける全組織であるが、特に、肝臓(肝機能障害)、腎臓(急性腎不全)、肺、内耳神経であるとの記述がある。

したがって、区分1(中枢神経系、胃、肝臓、腎臓、肺、感覚器(聴覚))を追加することとした。

**誤えん有害性** データ不足のため分類できない。

**12. 環境影響情報**

水生環境有害性 短期(急性)	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 > 100mg/L(IUCLID(2000))から、区分外とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	難水溶性でなく(水溶解度 = 4600mg/L(PHYSROP DB.(2005)))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

**13. 廃棄上の注意**

残余廃棄物	本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に危険が及ばないように十分注意すること。
汚染容器及び包装	関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

**14. 輸送上の注意**

国際規制	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	2811
Proper Shipping Name	TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S.
Class	6.1
Sub Risk	
Packing Group	III
Marine Pollutant	Not Applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II, and the IBC code.	Not Applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	2811

Proper Shipping Name	TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S.
Class	6.1
Sub Risk	
Packing Group	III
国内規制	
陸上規制情報	該当しない。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	2811
品名	その他の毒物(有機物)(固体)(他の危険性を有しないもの)
国連分類	6.1
副次危険	
容器等級	III
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び	非該当
IBCコードによるばら積み輸送	
される液体物質	
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	2811
品名	その他の毒物(有機物)(固体)(他の危険性を有しないもの)
国連分類	6.1
副次危険	
等級	III
特別の安全対策	
緊急時応急措置指針番号	154

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9)【第12号 アセチルサリチル酸(別名アスピリン)】

アセチルサリチル酸<アスピリン><2-アセチルオキシ安息香酸>含有する製剤その他の物。ただし、含有量が0.1重量%未満のものを除く。(施行令第18条の2第2号、安衛則第34条の2別表第2)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9)【第12号 アセチルサリチル酸(別名アスピリン)】

アセチルサリチル酸<アスピリン><2-アセチルオキシ安息香酸>含有する製剤その他の物。ただし、含有量が0.3重量%未満のものを除く。また、運搬中及び貯蔵中において固体以外の状態にならず、かつ、粉状にならない物(次の各号のいずれかに該当するものを除く。)を除く。1号 令別表第1に掲げる危険物 2号 危険物以外の可燃性の物等爆発又は火災の原因となるおそれのある物 3号 酸化カルシウム、水酸化ナトリウム等を含有する製剤その他の物であつて皮膚に対して腐食の危険を生ずるもの(施行令第18条第2号、安衛則第30条別表第2)

濃度基準値設定物質(安衛則第577条の2第2項、令和5年4月27日告示第177号、令和5年4月27日公示第24号)【アセチルサリチル酸(別名アスピリン)】

アセチルサリチル酸<アスピリン><2-アセチルオキシ安息香酸>

皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)【アセチルサリチル酸】

アセチルサリチル酸<アスピリン><2-アセチルオキシ安息香酸>化学物質又は化学物質を含有する製剤(安衛則第594条の2)。含有量が1重量%未満のものを除く。特化則等の特別規則において、皮膚又は眼の障害等を防止するために不浸透性の保護衣等の使用が義務付けられているものを除く。

航空法	毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)【国連番号】2811 その他の毒物(固体)(有機物) 他の危険性を有しないもの。他に品名が明示されているものを除く
船舶安全法	毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1)【国連番号】2811 その他の毒物(固体)(有機物) 他の危険性を有しないもの

---

## 16. その他の情報

---

参考文献	経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース ezCRIC+ 安全衛生情報センター GHS対応モデルSDS 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
その他	◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。 ◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。 ◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。 ◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。